



研究プロジェクト名称：

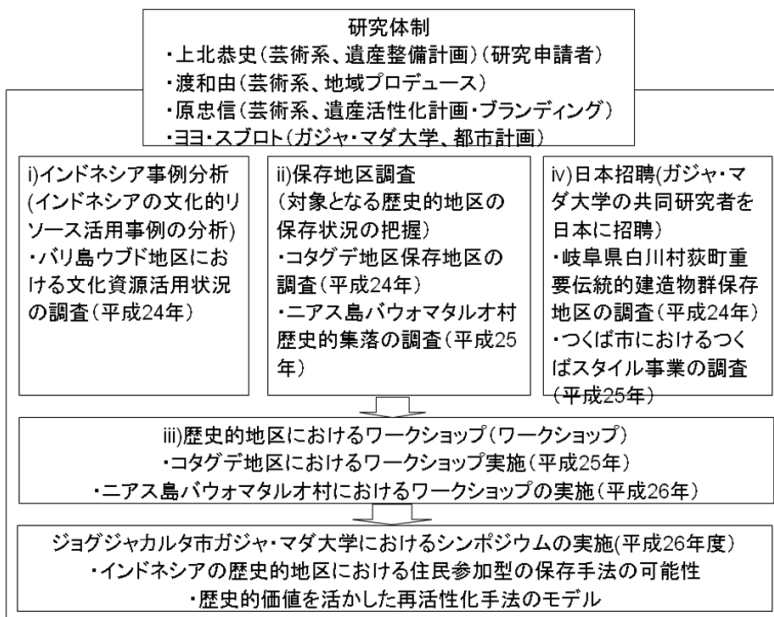
研究プロジェクト代表者：芸術系・教授・上北 恭史

研究プロジェクト計画の概要

本研究は、インドネシアの歴史的地区における住民主導型の保護手法と歴史的価値を活かした再活性化手法の研究を行うものである。本研究の特色は、筑波大学芸術系がこれまで行ってきた住民(学生)参加型アートデザインプロデュース事業の方法を応用し、市民意識の未確立なインドネシアに適した保存手法の方法論を検討することである。

本研究は、インドネシアのガジャ・マダ大学の協力のもとに、遺産整備計画、地域プロデュース、地域活性化計画とブランディングを専門とする日本人研究者と、現地フィールドの保存整備に取り組むインドネシア人都市計画研究者による研究体制を組織している。このような研究組織によって、ジャワ島ジョグジャカルタ市コタゲデ地区とニアス島南ニアス県バウォマタルオ村歴史的集落でワークショップを実施し、住民による保存活動のためのアクションプランを作成することをめざす。

インドネシアにおける住民主導型の保護手法と再活性化手法創出のために、本研究は3年間の研究期間において、i)インドネシアの文化的リソース活用事例の分析、ii)対象となる歴史的地区の保存状況の把握、iii)歴史的地区におけるワークショップ、iv)ガジャ・マダ大学共同研究者の日本招聘(日本招聘)、を実施する。そして最終年度にインドネシアでシンポジウムを行い、保存地区の歴史的価値を活かした住民主導型の保存活動の可能性について議論を行う。



研究の実施体制



ニアス島の歴史的集落保存



コタゲデ地区のワークショップ